

7月25日のローマでの緊急会議の論点は、1) ドナー国の一層の支援が必要であること、2) ツイン・トラック・アプローチといって、命と生活を救うと同時に、中長期的、持続的で強靱な農業を構築していく必要があること、3) 食料価格の不安定性が状況を悪化させていることと紹介。今後の対応については、議長サマリーを用いて、1) 最も脆弱な人々に対するセーフティー・ネットの確立、2) 食料援助等の当面の対応に加え、農牧畜業といった生産部門への支援、3) 種子、肥料、家畜飼料の配付や、道路・水というインフラの整備、4) 一度難民化すると農業の再開・継続が難しいことから、コミュニティに留めるための支援の必要性を訴えました。

ソマリアの農業については、干ばつが続いているために穀物生産が減っていること、今後も9月までは悪化が予測されること、一方で、ソマリアのポテンシャルについて言及。当面の対応はもちろんのこと、人々の生活手段を救うこと、農業・牧畜業に投資することの重要性を訴えました。